

令和8年度 大学院免許法認定通信教育 科目概要

| No. | 科目名・概要  |
|-----|---|
| 1   | <p><b>教育実践特講Ⅳ</b></p> <p>多様化する社会からの期待に応えるために、様々な現代的教育課題を取り挙げ、その実践等を学び、中・高等学校における教育実践についてさらに深く追究する。中・高等学校教育の場が求める教育者として、教職の基礎及び中・高等学校の教科等に関する専門的知識に基づく実践的指導力を学修し身につけ、教育者の専門職としての自覚とその教育を効果的に進めるための理論と実践力をさらに深く追究する。</p> <p>加えて近年課題となっている情報通信技術（ICT）を活用した学びの方法なども子どもの発達段階に応じた方法を追究し、その実践力の向上を図る。</p>  |
| 2   | <p><b>教育方法特講Ⅱ-Ⅳ</b></p> <p>最近の情報技術等の進展に伴い、多様な学習者に対応した多方向から撮影した教材化の開発がなされてきた。また、高品位で大容量の記録も安価で可能になり、また大容量記憶装置や高速ネットワークが急速に進み、映像教材も高品位で大容量の配信が可能になった。従来の学習教材の撮影方法や記録方法は、単方向からの撮影・記録が主なものであり、撮影方向には教材作成者の撮影意図が多く反映されていた。</p> <p>今後、多様な学習者に対応した映像の教材化を考えると、これまでの単方向を主として撮影・記録されてきたものから、多様な視点で教材を提示することが必要となる。そこで、本科目は、学習教材を多方向同時撮影することにより多視点映像として教材化し、多視点映像教材の教育利用・研究での課題について考える。</p> |
| 3   | <p><b>教材開発特講Ⅳ</b></p> <p>本講座では、教材開発の意味とメタバースの活用、AI との連携による個別最適化される学びなどについて理解し、メタバースやAI を利用した教材を開発することができることを目指す。メタバースを活用した教材開発は、没入型の疑似体験を可能にすると共に、言語や文化体験の学習に適した環境を提供することが可能である。AI との連携により個別最適化を進めることができ、学習者ごとの習熟度に応じた教材がメタバースでも提供できる。このような最新の技術も含めた教材開発を理解し、各講の課題に取り組むことで、教材開発のスキルの習得とその深化を図る。</p>   |
| 4   | <p><b>教育情報特講Ⅳ</b></p> <p>21世紀の知識基盤社会における「学力」は「他者と協働しつつ創造的に生きていく」ための資質・能力の育成である。そのために、授業では、他者と共に新たな知識を生み出す活動を引き出しつつ深い知識を創造させていく経験を、数多く積ませることが重要である。また、情報化や国際化が進み、社会が大きく変化する中で、学校、そして教師は様々な変化に直面している。児童・生徒に求められる学力の変化や授業でのICT活用など、教師はどう対応していけばよいのだろうか。本講座では「インストラクショナルデザイン」を手がかりに、教育情報の在り方について考えていく。</p>  |
| 5   | <p><b>教材開発研究Ⅳ</b></p> <p>新しいデジタルアーカイブ機能を用いた、教材の開発を目的とした「情報源」として、実物、体験、印刷メディア、デジタルメディア、通信メディアの収集と、これらを用いた教師と学習者により選択利用ができるマルチメディア教材の開発と教育実践において適用した際の学習評価について理解する。</p>   |

令和8年度 大学院免許法認定通信教育 科目概要

| No. | 科目名・概要   |
|-----|--|
| 6   | <p><b>教育情報研究Ⅳ</b></p> <p>教育現場におけるデータサイエンスの役割を構造的に理解し、エビデンスに基づいた教育実践（EBPM）を自ら推進できる基礎的な素養を養うことを目的とする。</p> <p>今日の教育現場では、児童生徒の学習履歴や行動ログなど多種多様なデータが蓄積されているが、それらをいかに「学習過程の解明」や「個別の支援」に結びつけるかが課題となっている。本講義では、「統計学」「機械学習」「教育理論」の3要素が重なり合う「教育データサイエンス」の視点を軸に、データの収集から分析、可視化、そして意思決定への活用に至る一連のプロセスを体系的に学ぶ。単なる数値管理ではなく、教員の経験知とデータが協働することで、教育の質を真に向上させるための「知の基盤」を構築することを目指していく。</p>  |
| 7   | <p><b>学校経営特講Ⅳ</b></p> <p>今日の学校には、いじめや不登校といったこれまでも指摘されてきた諸問題に加え、知識基盤社会を迎え、社会・経済の急激な変化への対応が求められている。2021年1月の中央教育審議会答申では、2020年代を通じて目指す学校教育の姿として「令和の日本型学校教育」が提唱された。そこでは、全ての子ども達の可能性を引き出す個別最適な学びと、多様な他者との協働的な学びの一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが目指されている。そうした学びを保障するために、学校組織の在り方にも変化が求められている。こうした変化において重要な役割を担うのが、校長をはじめとする学校管理職である。本科目ではこのような認識のもとに、「令和の日本型学校教育」で求められている学校管理職の在り方、特に管理職の行動を支える資質・能力である知識と応用力のうち、応用力に焦点を当て考察する。また、近年進みつつある学校におけるDX化について、学校を経営する立場として、その対応についても具体的に考える。</p> |
| 8   | <p><b>臨床心理学特講Ⅳ</b></p> <p>臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人々に対して、心理学的な知識や技法を用いて援助する実践的な学問である。現代の子どもたちは、デジタル化が進む学習環境や社会の中で、多様で複雑な心理的課題に直面している。本講義では、こうした時代背景を踏まえ、臨床心理学の基礎理論や応用理論、カウンセリング技法を学び、心の理解と支援に必要な視点を養う。さらに、デジタル化がもたらす認知発達への影響やゲーム・スマホ依存について理解を深める。また、ポジティブ心理学の視点を取り入れた学校・学級づくりや、子どもの危機支援および心のケアを扱い、子どもや教師のwell-being向上に資する支援者として、教育・支援現場で活かせる支援や環境づくりを考える。</p>  |
| 9   | <p><b>遠隔教育特講Ⅳ</b></p> <p>教育DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”とは、教師がデジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することである。また、学びという側面から考えてみると教育DXの目的は、「個別最適な学びという“新たな学び”の実現」である。20世紀の学習観は、行動主義・認知主義の学習観を採用していた。しかし、21世紀に入り、学習観は「主体的・対話的な深い学びの実現」という構成主義・社会構成主義の学習観に移行した。この変化から分かるように、教育が「全員に同じ教育」から「個々が持つ能力を最大限活かす教育」に変化している。ここでは、教育DX時代における遠隔教育という“新たな学び”の在り方について考える。</p>   |
| 10  | <p><b>教育課程特講Ⅳ</b></p> <p>本講義では、Society 5.0時代における教育のあり方を踏まえ、学校におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の必要性と重要性を理解する。また、具体的なDX戦略の策定プロセス、導入における課題と解決策、そして未来の教育がどのように変革されるかについて考察する。そのうえで、学校DXがもたらす変革であるより質の高い教育と持続可能な未来を目指し、教育と学校カリキュラムの抜本的な改革について考えを深めていく。</p>   |